

第 7 回パークレンジャー養成講座

「みんなで花を育てよう！」

講師：遠藤 尚美



第7回パークレンジャー養成講座を行いました。この日は37名の受講生が集まり、楽しく講義を受けました。

1. 前回の振り返り

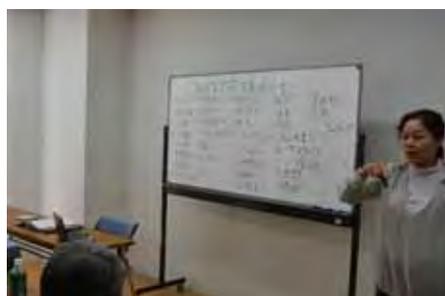
はじめに、前回の講座を振り返りました。

2. 講義:泉佐野丘陵緑地の取り組みについて

次に、大阪府の陣門さんより、(仮称)泉佐野丘陵緑地の理念やパーククラブ、運営会議、企業グループ「大輪会」の支援、苗床の取り組みについてのお話を聞きました。りんくう公園で育てられた苗床は関西国際空港や、水都大阪 2010、御堂筋にも提供されていました。今後もりんくう公園の花苗の育成は「公園の景観向上」や、「公園のPR」、そして「地域活性化の促進」の一助を担う取り組みとして引き続き行われます。

3. 講義:みんなで花を育てよう！

その後、有限会社サステナブル・eの遠藤先生による花に関する講義が行われました。講義では、「公共スペースで花を育てるポイント」、「花壇作りの基礎知識」、「サステナブルガーデンのすすめ」等のお話をして頂きました。講義を聴いて植物の特性や種類を知り育てることの大切さや、多くの方が利用する公共空間で花を育てる難しさを知りました。



4. 見学:りんくう公園の苗床の見学

午前中の最後は、りんくう公園の苗床を見学しました。遠藤先生からバックヤードで育てられている植物の紹介や栽培方法などのお話を聞きました。



5. 観察:りんくう公園の花壇の観察

午後からはりんくう公園の花壇を見学しました。りんくう公園には、多種多様な植物が植えられています。それらは公園ボランティアさんによって管理されています。これらの植物は花壇に整然と列べられていますが、目印(アイストップ)となる花壇と、癒やしや散策のための花壇等、利用用途があった花壇のレイアウトがあることを知りました。また、公園には園芸用に品種改良された植物が植えられています。品種改良された植物は、原種のものより強く派手な植物が多いという特徴のお話しもして頂きました。



6. 観察:泉佐野丘陵緑地の植物の観察

泉佐野丘陵緑地ではどのような種類の植物が植生しているか観察をしました。りんくう公園のように人の手で植えられた草花と違い、この地に適した原種の植物がたくさんあることがわかりました。植物の生態や特徴を知ることで植物との上手なつきあい方も知ることができるとお話頂きました。散策しながら堆肥に向く葉の種類なども学びました。



7. ホームルーム、閉会

最後に「里の館」に戻り、講座のまとめを行いました。公園の植栽を考えるときには、常に泉佐野丘陵緑地の理念と照らし合わせつつ、現在生息している植物とのバランスを考えることが大切だと学びました。



最後のホームルームでは、シークレットフレンドの発表を行い、感想シートを記入して終了しました。



《主な感想》

- ・花苗を生育させるには、機械だけに頼らず、手作業で行うことは一年を通して大変なことだと感じました。
- ・自生地条件(日当たり等)により自生する草花が異なることを実感しました。
- ・花壇のデザインには、一定のセオリーがあるのを知りました。
 - ・天然の草と園芸の草では共存できないので、目的に応じた植栽が必要である事が分かりました。
 - ・水やりではなく水の管理が大切だと知りました。



第 8 回パークレンジャー養成講座

「みんなで作業しよう！」

講師：日本パークレンジャー協会



第8回パークレンジャー養成講座を行いました。この日は35名の受講生が集まり楽しく講義を受けました。

1. 振り返りクイズ

この日は朝から泉佐野丘陵緑地で講座です。りんくうタウン駅からバスに乗って公園に向かいました。車中では、これまでの講義を振り返るクイズを行いました。



2. 前回の振り返りとシークレットフレンド

公園での会場は、緑に囲まれた郷の館です。郷の館では、はじめに前回の講座内容を振り返りました。その後、前回に引き続き、「シークレットフレンド」というゲームを行いました。今回の指令は前回の発展版として、シークレットフレンドに対して単に観察するだけではなく、「こっそりと手助け」をことが内容に加わりました。



3. 講義:府民の森でのパークレンジャーの活動紹介

次は座学です。NPO法人日本パークレンジャー協会の武田俊文先生に、府民の森で実際に行われているパークレンジャーの活動を紹介していただきました。その後、レンジャーによる活動の意義や自然を見る際の注意点等についてもお話いただきました。また、泉佐野丘陵緑地パークレンジャーと同じようにボランティアとして活動されている立場から、活動を行う際の注意点についても説明いただきました。



4. 講義:竹の効用、クラフト用道具の使い方

お昼休憩では、公園で活動していたパーククラブの1期生、2期生と一緒に食事をする事ができ、交流を深めることができました。午後からは、実習です。この日の実習は竹材を用いたクラフト指導を学ぶ講座です。まず、NPO法人日本パークレンジャー協会の古川秀則先生に竹の種類、効用、道具の使い方をお話して頂きました。その他にも用途によって使い分けることで長持ちすること等、道具の種類や使い方のお話をしていただきました。



5. 実習:クラフト作り(竹箸、竹トンボなど)

道具の使い方をお教え頂いた後、6チームに分かれてクラフト作業を行いました。まず、竹コップを作るために一本の竹からそれぞれで適当な長さに切り分けました。竹に紙を一周巻きつけて、印をすることで平行にカットできる事を教えてもらいました。飲み口は小刀で面取りをした後、ザラつきがないように紙やすりで丁寧に仕上げました。2つ目の製作物として、竹箸をつくりました。同じ太さに仕上げることは難しく、みなさん苦戦されてましたが、個性の出た素敵な箸を仕上げることができました。これら2つの製作物を仕上げた後、時間が残った方は竹トンボづくりにも挑戦しました。みなさん、とても夢中に作業されていました。作業後は、全員で協力して片付けをしました。



6. ホームルーム、閉会

最後に郷の館において、講座のまとめとホームルームを行いました。ホームルームではシークレットフレンドの発表を行い、感想シートを記入して終了しました。



《主な感想》

- ・パークレンジャーの心意気を十分に感じる講座であった。来場者が客であると考えた場合、客に重さを感じさせない講義案内が必要になると感じた。企画・計画の段階では本日の講義の内容が必要になると思う。
- ・朝の講義は2人の息の合った話とてもたのしかったです。パークレンジャーという仕事の難しさや楽しさが少しわかった様に思いました。昼からのクラフト作り竹で何かつくった事の無い私にとって楽しくもあり、手のいたい作業でした。ご指導ありがとうございました。
- ・久しぶりに工作をして、楽しかった。ハシを1セット作るのに四苦八苦してしまった。講師のお二人とも楽しい講義内容でした。



第9回パークレンジャー養成講座

「活動計画の方法を学ぼう！」 講師:山崎 亮



第9回パークレンジャー養成講座を行いました。この日は 35 名の受講生が楽しく講義を受けました。

1. 前回の振り返り

この日は、朝から泉佐野丘陵緑地「郷の館」で講座を行いました。はじめに、前回の講座を振り返りました。

2. 講義:パークレンジャーとして活動するために

次は、株式会社 studio-L の山崎先生による講義です。山崎先生には「公園のボランティア活動について」、「都市公園法について」、「活動を行う上で重要なこと」、「ワークショップについて」等をお話いただきました。その中では、都市公園法に規定されている「できることと、できないこと」や、パブリック空間である都市公園は、常にみんなが平等に公園を利用できるように配慮しなければならないことを説明いただきました。また、法律で規制されている行為のうち、樹木の伐採等パーククラブが活動する上で必要な行為については、運営会議で話し合いながら進めていくことも説明いただきました。さらに、ボランティアのとらえ方について、日本では無償で行うことが最も強くとりあげられてしまっているため、自主性や公共性等、他の特徴が目立たなくなっていることについても教えていただきました。最後に円滑に話し合いを進める方法として、「ワークショップ」という技法のお話をして頂きました。ブレインストーミングやKJ法という手法があることを学びました。



3. チーム分け

講義の後は、ワークショップの技法を学ぶため、「この公園でしたい活動」をもとにチーム分けを行いました。それぞれ興味のある活動を話し合い、「公園づくり課」、「イベントL企画」、「サーチャーズ」、「広報」、「樹木管理課」の5チームに分けられました。

4. ワークショップをやってみよう(その1)

ひとつ目のテーマは、「5年後の活動のあり方を考えよう」です。このワークショップは、まず5年後の活動イメージを膨らませ、その活動を実現するために「3年後には何をすべきか」、「来年には何をすべきか」と未来から現在へ考えを広げていくものです。それぞれのチームで話し合い、最後に発表してイメージを共有しました。

<各グループの意見>

公園づくり課

泉州らしさを活かした公園、車椅子が通る道をつくる

イベントL企画

小学生の郊外授業の誘致、周辺自治体のイベントの誘致

サーチャーズ

樹木の観察会講座の実施(公園内の樹林・植生案内)

広報

季刊誌(P R誌)を発行、公共誌に行事を掲載する

管理課

樹の元気度を強くする、自然木を活かした公園

5. ワークショップをやってみよう(その2)

次に、「次回の散策活動に向けて準備をしよう」というテーマを話し合いました。山崎先生のアドバイスを早速実践し、イラストを描いて意見を記入したり、ペンや付箋の使い方を工夫して意見をまとめることができました。

6. ホームルーム・閉会

最後にホームルームを行い、9回目の講座が終了しました。

《主な感想》

- ・パークレンジャーとして活動するには、都市公園法を理解する必要があることを知った。
- ・本日の講義を受講して、パークレンジャーとして公園で活動する事がより楽しみになってきた。
- ・ワークショップについて学んだ。1人でやろうと思えば不安な企画等も皆の知識や思いつきでみるみる1つのものにまとまっていく。一人ひとりの不備も埋まっていく。仲間づくりにも素晴らしい手法だ。
- ・ワークショップの手法と練習がいい勉強になった。



第 10 回パークレンジャー養成講座

「今後の活動を考えよう！」 講師：下村 泰彦



第 10 回パークレンジャー養成講座を行いました。この日は 37 名の受講生が楽しく講義を受けました。

1. 前回の振り返り

本日は現地での講座です。現地に向かうバスの中で、前回の講座を振り返りました。その後、今回の講師である大阪府立大学の 下村先生から公園を散策する際の着眼点や注意点の補足説明をして頂きました。木を観察する際も「葉が紅葉しているのか」、「針葉樹なのか」、「花や実がどのように咲き、実っているのか」等、細かく注意して見る事が大切だと教えて頂きました。

2. 公園内の散策活動

公園に着いたら、散策開始です。今回は、今まで通らなかった道や、池のほとりなども散策しました。散策中も下村先生に様々なお話を頂きました。バンブー広場では先輩のパークレンジャーが樹木管理を行い、弱った木が少しずつ回復している事などもお話頂きました。散策する際の注意点に気をつけて歩く事で、今までに気づかなかった新たな魅力の発見がありました。また「竹の切り株が通路にもあり危険だ」、「水辺の整備の仕方はどうすべきか」等の意見も出ました。短い時間でしたが、様々な魅力や課題を発見することができました。



3. 講義

午後からは下村先生の講義を受けました。「現況調査の整理方法」、「泉佐野丘陵緑地について」、「敷地分析から敷地計画への流れ」等、公園づくりの手法や、公園づくりの難しさなどをお話して頂きました。



4. 公園の魅力と課題を整理しよう！

講義の後はチームに分かれて午前中の散策活動で見つけた魅力と課題を、地図と模造紙に落とし込み、整理しました。最後に各チームの発表を行いました。課題としてあげられた項目も他のチームは魅力として捉えている等、様々な気づきがありました。発表を通しそれぞれのチームで出た意見を共有することができました。



<魅力>

ヤマザクラ・ヤマモモ／水辺の生物／鳥の鳴き声が聞こえる／多種多様な自然／水辺の広場の景観／棚田／郷の小径／森の香り／水辺の希少種／棚田の復活／竹林がきれい／竹のチップ／土地の高低、奥行きのある景観 等

<悩み>

竹林の整備／竹の切り株／道のぬかるみ／池の水質／ため池の利用法／排水路の整備／鳥の糞害／高速道路を通る車の音／高速道路のガードレール(景観が悪い)／細くて危険な通路／傾斜が急／花木が少ない 等



発表後、下村先生から講評をいただきました。「魅力と課題を整理して様々な意見がでました。同じように公園を作っていく上でも答えは一つではなく、決定していく事は優しくありません。公園づくりが難しいこと、これから協議していく事、公園を散策する際の注意点や着眼点に気づいて頂けて良かったです」とお話頂きました。



5. ホームルーム・閉会

最後はホームルームです。次回の講座の案内をし、感想シートに記入して今回の講座を修了しました。

<<主な感想>>

- ・着眼点や見所を教えてもらってから歩く事で、今まで気づけなかった事に気づけました。
- ・公園づくりは基本条件が大切で、これから行っていくことの難しさ、そして面白さを再確認しました。
- ・公園づくりはゾーニングとサーキュレーションが大切な事がよく分かりました。
- ・それぞれが感じた魅力と課題を共有することで、公園の現状を以前より把握できました。



第 11 回パークレンジャー養成講座

「今後の活動を考えよう！」 講師：下村 泰彦



第 11 回パークレンジャー養成講座を行いました。この日は 38 名の受講生が楽しく講義を受けました。

1. 前回の振り返り

はじめに前回の振り返りを行いました。現地散策の後、チームに分かれて意見を出し合った「魅力」や「悩み」について確認しました。

2. 土地条件図を作成しよう！

午前中のワークショップでは、前回の散策活動の結果や地図の読み取りを通じて、「土地条件図」を作成しました。まず、大阪府立大学の 下村先生から作業の流れとポイントについて説明をいただきました。その後、前回の意見交換も踏まえつつ、『公園づくり課』、『イベント L 企画』、『広報』、『樹木管理課』、『サーチャーズ』の 5 つのチームに分かれて「土地条件図」の作成に取りかかりました。各チームで、ランドマークとなる樹木や尾根筋などの地形、市街地への見通し、改善すべき点や気づいた点など、現状の公園の様子を地図に書き入れていきました。下村先生の説明や作成時のポイントを意識しながら「土地条件図」を作成しました。前回、地図に落とし込んだ情報を、分かりやすく絵として落とし込む作業は とても難しい作業でした。調査してきた情報の中で、何が大切な のか優先順位をつけ、それぞれ意見を出し合いながら見やすい 地図となるよう、気を配り作図しました。



3. コラボレーション区域の基本方針を考えよう！

午後からは、完成した「土地条件図」をそれぞれのチームごとに発表し、情報を共有しました。その後のワークショップで、中地区のコラボレーション区域を対象に、これからつくっていく公園の「全体テーマ」と「サブテーマ」について意見を出し合いました。その後、午前中の土地条件図と思い出しながら、「全体テーマ」、「サブテーマ」を実現するために必要な活動内容や風景像から中地区コラボレーション区域内のゾーニングを行いました。

○中地区コラボレーション区域の全体テーマ

- ・ひょっこり里山村(公園づくり課)
- ・森と湖の泉州路(広報)
- ・泉州里山眺望といやしの公園(サーチャーズ)
- ・泉州ふれあいの里(イベントL企画)
- ・泉州ふるりの森公園(樹木管理課)

○ゾーニング

五感で楽しめるゾーン/フィールドワーク遊びゾーン/出会うゾーン/語らうゾーン/ふれあうゾーン/発見するゾーン/癒しゾーン/体験ゾーン/景観ゾーン/ロマンゾーン/子供の遊びと冒険ゾーン/水辺を楽しむゾーン/大阪湾を見下ろすゾーン/子供憩いの広場/水性植物ゾーン/森林浴を楽しむゾーン

これらの作業を通じて、今後公園づくりを行っていく基礎を学ぶことができました。

4. 修了式

講座終了後、無事に全11回の講座を受けて修了された38名の方々に修了書が手渡されました。さらに企業グループ大輪会から帽子と作業着の受け渡しをしていただきました。次回からは、パーククラブ1期生、2期生の皆さんと合流して共に活動します。受講生の皆さん、長期の受講お疲れ様でした。

《主な感想》

- ・土地条件図の進め方についてよく理解できた。調査してきた内容を絵などで表現することが難しかった。
- ・意見を集約することの難しさについて改めて実感。公園づくりがいかに難しく、時間がかかることが分かりました。今まで学んできたことを思い出しながら、今後も知識を深めたいです。
- ・楽しく前進。皆で学ぶことの楽しさも学びました。
- ・土地条件図を書くことで、「やれる事」や「優先順番」が明確になりやすいと理解できました。
- ・「現況調査」と「調査の分析図」に関連づけて、将来の公園イメージを作ることの大切さが理解できました。
- ・公園づくりは全員で協力することが大切だと感じました。

